

子供ど真ん中の学校

～かがやく海が見える丘より～

令和6年6月19日
長崎市立歎刈小学校
学校だより NO. 26
校長 田中 成年

＜子供の人権を守る＞

～いじめをなくすための取組～

学校という大きな集団の中で生活をしていると、意見や思いの食い違いによるけんかや言い争いは毎日のようにあります。ましてや歎刈小学校は全校650名の大きな生活集団ですので、意見の食い違いのない日はもちろんありません。当たり前のことです。

人はそれぞれ違った環境で育ってきています。価値観が違うのは当たり前です。

集団生活をする中で大切にしたいことは、「自分の価値観」を押し付けずに「意見を出し合い、納得するまで話し合いすること」「相手の意見を受け入れ、尊重すること」だと考えています。

まだ学びの途中である子供たちはちょっとしたことでけんかをします。手を出します。

そういう中で決して許してはいけないことは、相手の人格を否定する言葉を発したり、からかったりすることです。暴力をふるうことは、もってのほかです。言うまでもなく、一方的に継続して精神的に追い詰めたりすることは「いじめ」につながります。一人一人の心を見つめながら、対応していきたいものです。

子供たちの心を安心させ、安定させるためには、「丁寧で、品のある、温かい、言葉のシャワー」が必要となります。

学校だより NO. 16 「笑顔」で紹介をした内容です。まずは、一人一人の子供たちの心を育てることだと思います。子供たちの「心の安心と安定」が、意地悪を生んだり、暴力をふるったりすることを抑制する力となります。

＜学校の取組＞

○25%ルール 「褒め褒め大作戦」 子供たちは笑顔になります。

○「できたことは褒め、できないことは教える」

できないことを教えることで「できた喜び」を味わい、笑顔になります。

○「品のある丁寧な言葉づかい」

大人も子供も互いの人権を尊重し合うことで、笑顔になります。

子供たちに自信をもたせ、自己肯定感や自己有用感を高めることは、人としての大きな成長につながります。子供たちの「正しい人格形成」が大人の務めだと思います。

子供だからけんかもします。合言葉は「けんかをしても仲直り」いかがでしょうか。